

■ 編集後記 ■

「翻訳研究育成プロジェクト」によるウェブ版『翻訳研究への招待』12号をお届けします。8月末締め切りというタイミングのせいか、力作が多数そろいました。今後も引き続き、締め切りを8月末と2月末とすることにより(JAITS学会誌の締切は8月1日)、より多くの皆さまに投稿していただけることと思います。

今号の投稿では科学技術系のトピックが目立ちます。日本の技術力の高さを考えると、世界の翻訳市場における日本の翻訳の役割はおのずと明らかであり、そのことを反映しているのかもしれませんが。さらに翻訳プロセスにも技術の発展があり、今後、日本でも翻訳の分業化、作業フローの体系化、品質管理などがいっそう進んでいくと思われます。最近では当学会で、翻訳・通訳に対する世界基準(ISO)の導入がさかんに話題にされています。そうした変化が翻訳訓練・翻訳教育に与える影響も、当然のことながら大きなものでしょう。本誌はテクノロジーを含めた幅広いトレンドを取り込みながら、ますます広がり深めていくことと思います。グローバル化のなかで日本の翻訳研究からの発信が増えることに『翻訳研究への招待』が貢献できるよう、特に若い方を中心として、ふるってご投稿をお願いいたしたく存じます。

翻訳研究は実に多様な側面をもっています。本誌も新しい視点を取り入れ、特集企画などで充実をはかっていきたいと思えます。ご意見・企画などありましたら tanabe@mail.kobe-c.ac.jp までぜひお寄せください。また本プロジェクトの中長期的活動目標として、「翻訳論アンソロジー現代日本編」「翻訳論アンソロジー外国編」「翻訳関連文献集成」があります。これは言語を問いませんので、英日以外の言語を専門とする方も、ぜひ積極的にご参加ください。

次号(13号)は2015年4月末の刊行を予定しています。投稿の締め切りは2月末です。多くの論考をお寄せください。投稿をお待ちしています。

2014年10月28日

『翻訳研究への招待』編集委員会